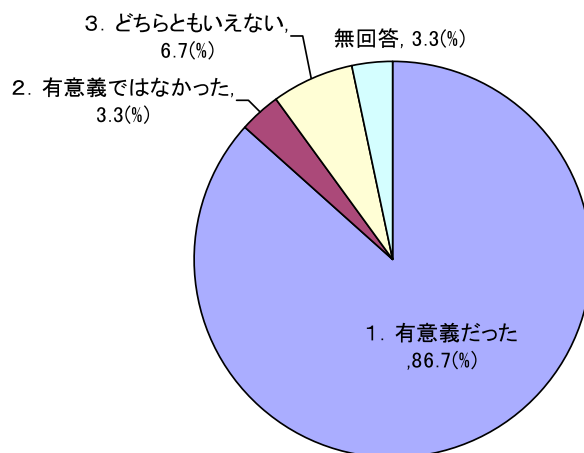


## 平成20年度 第2回全学FD アンケート結果について

実施日	: 平成20年9月9日(火)
参加者数	: 55人(関係者を除く)
回収枚数	: 30枚
回収率	: 54.5%

**質問1** 今回の全学FDは、学生の修学情報の管理・活用を通じた教育実践の意義を理解し、あなたの所属する部局で教育改善を行ううえで有意義でしたか。

1. 有意義だった	26(人)	86.7(%)
2. 有意義ではなかった	1	3.3
3. どちらともいえない	2	6.7
無回答	1	3.3



**質問2** 質問1において「有意義ではなかった」、「どちらともいえない」の理由

「各部局により事情が異なるので、一般化して考えることができない」  
他同じ内容の意見が3件

**質問 3** 今回の全学FDの中で特に印象深かった企画は何ですか。また、その理由をお書きください。(複数回答可)

1. 解説	2 (人)	6.7 (%)
2. 取組紹介① 経済学部	7	23.3
3. 取組紹介② 医学系学府	21	70.0
4. 取組紹介③ 法務学府	5	16.7
5. 班別討議	12	40.0
6. 全体討議	1	3.3

<理由>

1	全体的な流れが良く分かった
2	今後の取組における良い例が説明され、参考になった／学部での留年対策として参考となった／学生の修学カルテの活用について印象深かった／現在我々の部局で行っている取組を更に進めた取組であり、参考になった
3	自分の研究室運営に参考になった／医学系学府での取組は講座の運営の方法論として、大変参考となりました／精力的な取組で、自分の研究室でも応用できそうな点は試してみようと思う／指導者(教授)の熱意にはすっかり感心しました。私の研究室ももっと、システムティックに指導体制をとれるかもしれないと思いました／研究室配属された学生にとっては教育効果が上がる取扱だと思われる／自身の大学院生の修学管理方法の具体的ヒントを得ることができた／研究に役立ちそうに思えたから／個人の発展状況を自己記録して再考できるシステムは非常に教育上有意義である／ポートフォリオの多様な意味が把握できた／修学情報の管理に利用できる可能性を感じた／学生中心の情報が伝わった／コツコツとした取組で、日頃の意識と実践が大事であることを感じさせた。大学院ではやり易いと思うが、学部において実践するにはどのような工夫が必要となるか考えさせられた／大学院における学生管理が具体的に良く分かった／各部門の個性に応じた密度の高いコミュニケーションが可能／学習ポートフォリオについてもすばらしいと感じた／具体的医学府の人材教育の事例が面白かった／目的が明確なグループでの積極的な取組は、大いに参考になった／熱意ある取組が印象的だった
4	IT化という点で時代にマッチ／学生との情報の共有／具体的説明だった
5	今後の取組における良い例が説明され、参考になった／他学府の動向が理解できた／各部局での取組の違いを知ることができた／各学部の内情が聞けておもしろかった／他部局の様子を知るのには有効だった／他学府の状況がわかり、それぞれの取組が印象的であった／他の学部のことを班別討議を通じ詳しく理解できた／他学部の状況を知ることができた／それぞれの学部の様子がよく分かった。問題が

	共有できた／他学府における学生及び院生の修学管理方法、それについての問題点を知ることができ有意義だった
6	(記述なし)
全	今後の取組における良い例が説明され、参考になった

**質問 4** 今回の全学FDで採り上げられた部局の取組について、あなたの所属する部局でも採り入れたいと思われた点があればお書きください。また、それはどのような点で優れていると考えられたからですか。

○修学カルテ（経済学部）に関して

カルテを作るのは留年対策としてよいかもしい／低年次での修学指導。早い段階で学生の修学状況を把握することが重要／放置されてしまう学生はいなくなるという効果は期待できる

○学習ポートフォリオ（医学系学府）に関して

ポートフォリオの話は、活用できると思った。それに近い部分は既にあるが、充実できればいいと思う／学習ポートフォリオ：学生の到達度を把握できる／ポートフォリオ(学生の自覚向上)の充実／学生の自主的なポートフォリオの作成。学生が自らを省みる機会を提供できる／学生の自主性を高め、先生とのきめのこまかなコミュニケーションをはかれること／学生のポートフォリオを作ることによって学生自身が自らを省みることができるような機会を作るのは良い試みだと思うが、どのような形のポートフォリオが可能であるかは、部局によりまちまちであろうと思われるので、画一的に義務化するようであれば、むしろ導入に反対である／学府という観点から、片野先生のゼミの修学管理の方法が役に立った。ただし、私の所属する学府は文系のため、その応用方法は自ずと異なってくるが／学府における講座の取組。（教員と学生集団の組織化、ネットワーク化）として、医学府の例は参考になった。

○マイデスクトップポータル（法務学府）に関して

部局内での情報交換を円滑にするため、法務学府の「マイデスクトップ」のようなツールは有効であると思う／マイデスクトップを学部教育に

○その他

ネットワークを用いたデータ管理。随時に学生の学習状況を把握できる／優れたソフト(ハード)を知れて良かった。導入検討のよい知識になる／取組科目の一

覧ができるチェックシートは学生にとっては安心できるアイテムではないかと思  
います／学部・学府の連続性・一連の修学。一つの目標についての特化という点  
である／各部局の特異性がある、採り入れは難しい。個別な事項については既  
に実施済みであるが、参考にして実効のあるものにもっていければよい／理学府  
のカルテ作成（「成長の記録」？）も興味深かった。（グループ内で紹介された）

**質問 5** あなたの所属する部局で、学生の修学情報の管理・活用を通じて教育改善をはか  
る際に課題となっていることは何だとお考えですか。また、解決策について個人  
的な考えも含め自由にお書きください。

○学生支援スタッフ（教職員）について

課題はデータの入力、維持、管理である。誰が行うのか心配である／データを  
入力できるモチベーションをどう与えられるか。単なる雑用とならない工夫が必  
要／書き込み、入力する手間を減らして欲しい。別のところで入力することで 2  
重 3 重にするのは問題ある／情報の作成、管理にかかる教員のコストとそれに対  
する抵抗感／ソフト、ハード及び管理に対して人的な措置が採りにくく、体制が  
構築できない／人員。システムができて、それを円滑に運用するには人手が  
いる／学生係との連携

○制度、組織、意識について

学部・学府などの壁／学生の情報（学府の場合、院生の研究業績 etc）を効率的  
に収集できる仕組み作り／研究室所属の時期がないこと／誰が担当するのか明確  
でないこと。委員会等の組織・担当が複数あってはつきりしない／大学院でど  
のような修学情報の活用が有効であるか判然としていない／複数指導教員制のデー  
タとして有効利用が可能／実効性、継続性のある取組方法が必要／教育の意識改  
革／先生方の意識

○授業、科目について

単に専門教育のみを考えているのではなく、学生の修学意欲を持たせ得る科目  
の導入／講義等の難易度。特定の講義を落とすことによって困難な状況にある学  
生に、適切なフォローができないため、あまりに落とす学生が多い講義をマーク  
することが必要／生物系科目の強化。入試における「生物」の必修化。物・化・  
生とも必修。全学教育で強化

○メンタルケアについて

学生への指導方法。特にメンタルな問題がある学生への対応／メンタルヘルスケア

○その他

学生の監督、管理ばかりを考えているようで、感心しません。片野先生の取組が素晴らしいのは、学生の主体的な発展の手助けとなっているからで、その仕組みそのものは、普遍化するには相当な無理があります／個々の部局で事情が異なるので、確一的なものはそぐわない／低学年時の指導面談を密に行うことが有効。高学年時では薬学部は研究室配属があり、問題がないと思う／学生の研究目的に応じた、弾力的な個別管理、活用の必要性

**質問 6** あなたの所属する部局において教育改善のために学生の修学情報を管理・活用するにあたり、全学による支援体制について要望等ありましたらお書きください。

○データ管理システムについて

全学統一のデータ管理システム。PC の設置場所の整備／修学情報の管理法／学生の出席状況等、リアルタイムの修学情報の総合的な管理／システムの構築／学生の修得単位システムをより高機能なものにする（不足単位の自動表示等）／教員情報システム（教育・研究業績等の収集）の院生版があれば良いかもしれない。院生もいろいろな申請に活用できるもの。

○職員（学生系職員）について

学生系の充実／学生係は極めて重要な役割を担っているので、この体制を維持していただきたい

○その他

新任教員のバックアップ／部局の実状に応じた弾力的な支援／画一的なシステムではなく、予算が必要／他大学での取組を漸次紹介していただきたい／修学カルテ、ポートフォリオの有効性は認めるが、その実施にあたって、教員、学生の負担になるようなものであっては意味がない。もし、全学共通の修学カルテが構築される際には、例えば、経済学部の事例にあったような簡単なものにして欲しい。重要なのは、教員と学生の双方向的な交流であり、その最も直接的なあり方は実際に会って話を聞くことにある。修学カルテ、ポートフォリオはその学生と教員の接触の取っかかりとなるものであってほしい。

**質問 7** 全学FDに対する意見、提案等ありましたら自由にお書きください。

○テーマについて

今回のFDのテーマが、あまり全体に良く伝わっていなかったのでは？議論が  
違うところへ行っていることが多かったようです／テーマはよく吟味する必要がある

○参加者について

教員と事務方の双方が協力した検討が必要／他学部の先生とディスカッション  
できる点では有意義である／一部の教官の出席を求めるのではなく、広く参加者  
を募るべき

○その他

FDの取組に対する全学的コンセンサスをもっと高めたい／他学部、学府の取  
組は参考となった／有益でした／今回は修学に関連しているが、メンタル、精神  
疾患に係わる問題（ひきこもりなど）は別に扱うことが必要。情報は取り扱いに  
注意が必要である。他方で放置しないですみやかに対処することが必要である